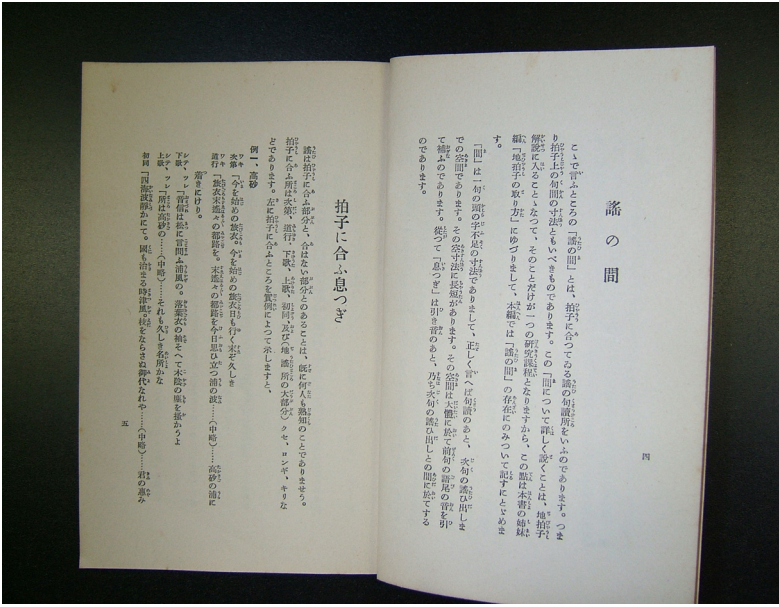
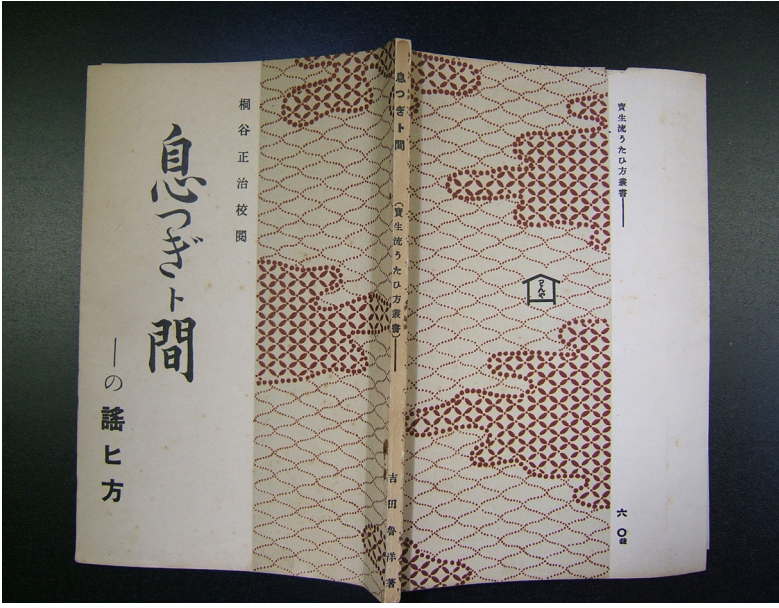


吉田魯洋 『息つぎと間の謡ひ方 宝生流うたひ方叢書』

宝生流うたひ方叢書は、81頁に紹介した六巻に『クセとロンギの謡ひ方』が加わり、さらに本巻が続く。本巻巻末広告には『地拍子の取り方』『ゴマ節の謡ひ方』が近刊とある。『息つぎと間の謡ひ方』では、息つぎは謡本の「句読点」箇所でおこない、「拍子に合ふところの句読点はすべて仮名一音分あてゝあり(中略)、その息つぎは、仮名を一音うたふだけの時間に於て為すことが絶対的条件」(二七頁)と述べる。このような把握の仕方が地拍子の説明に先行するのは、謡教本としての一見識である。



標題 内題…息つぎと間の謡ひ方 宝生流うたひ方叢書

たひ方叢書

標題紙…宝生流うたひ方叢書 息つぎと

間の謡ひ方

奥附…『宝生流うたひ方叢書』息つぎと間の謡ひ方

と間の謡ひ方

その他…息つぎと間の謡ひ方 宝生流うたひ方叢書(目次)、息つぎと間の謡ひ方(表紙)、息つぎと間宝生流うたひ方叢書(背)

著者 奥附…吉田只雄(魯洋)

その他の場所…吉田魯洋(標題紙・背)

出版 版次…第一版

出版地…東京

出版社…わんや書店

出版年…昭和10(1935)

その他の場所…

形態 冊数…一冊 頁数…七七頁

寸法…19×13 (cm)

状態 写本版本の別…版本 現物複写の別…現物

備考 桐谷正治校閲。